

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、足踏み状態にある。
先行きについては、慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲39.6と、前期比で3.8ポイント増加し、3期ぶりに改善した。業種別では、製造業は3期連続で悪化し、非製造業は3期ぶりに改善した。先行きD Iは、▲26.1と、前回調査比で2.0ポイント増加し、2期ぶりに改善した。
- 売上げD I・採算D Iは2期連続で改善した。
- 資金繰りD Iは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は2期連続で増加した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：平成31年4月～令和元年6月期、「当期」：令和元年7～9月期、「来期(先行き)」：令和元年10～12月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲39.6となり、3期ぶりに改善した。前期比で3.8ポイント増加し、前年同期比では9.0ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲45.8)は3期連続で悪化し、非製造業(▲34.7)は3期ぶりに改善した。

〈景況感D Iの推移〉

	当 期 (R1.7-9)	前 期 (H31.4-R1.6)	前年同期 (H30.7-9)
全 体	▲39.6	▲43.5	▲30.6
製 造 業	▲45.8	▲45.2	▲27.0
非製造業	▲34.7	▲42.1	▲33.5

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は6.5%（前回調査(H31.4-R1.6月)比▲0.1ポイント）、「悪い方向に向かう」とみる企業は32.6%（前回調査比▲2.0ポイント）だった。

先行きD Iは▲26.1（前回調査比+2.0ポイント）と、2期ぶりに改善した。

〈来期の見通し〉

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R1.10-12)
全 体	6.5%	32.6%	▲26.1
製 造 業	6.4%	32.0%	▲25.6
非製造業	6.6%	33.1%	▲26.5

2 売上げについて

売上げD Iは▲22.7（前期比+3.3）となり、2期連続で改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R1. 7-9)	前 期 (H31. 4-R1. 6)	前年同期 (H30. 7-9)	来期見通し (R1. 10-12)
全 体	▲22.7	▲26.1	▲14.5	▲11.5
製 造 業	▲23.5	▲28.0	▲9.8	▲7.5
非製造業	▲22.1	▲24.6	▲18.3	▲14.6

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲19.9（前期比▲0.6）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに悪化し、非製造業は2期連続で改善した。

来期については、製造業は当期の資金繰りD Iより改善し、非製造業は悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R1. 7-9)	前 期 (H31. 4-R1. 6)	前年同期 (H30. 7-9)	来期見通し (R1. 10-12)
全 体	▲19.9	▲19.3	▲15.8	▲17.4
製 造 業	▲23.4	▲20.7	▲14.8	▲15.0
非製造業	▲17.0	▲18.1	▲16.6	▲19.3

4 採算について

採算D Iは▲27.2（前期比+2.1）となり、2期連続で改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業は2期連続で改善し、非製造業は3期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R1. 7-9)	前 期 (H31. 4-R1. 6)	前年同期 (H30. 7-9)	来期見通し (R1. 10-12)
全 体	▲27.2	▲29.3	▲23.6	▲20.7
製 造 業	▲28.9	▲29.2	▲20.9	▲17.4
非製造業	▲25.9	▲29.5	▲25.9	▲23.3

5 設備投資について

実施率は22.9%となり、2期連続で増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期連続で増加し、非製造業は4期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R1.7-9)	前 期 (H31.4-R1.6)	前年同期 (H30.7-9)	来期見通し (R1.10-12)
全 体	22.9%	21.7%	23.5%	18.1%
製 造 業	27.0%	25.7%	28.6%	23.5%
非製造業	19.6%	18.6%	19.5%	13.8%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・世界的な景気動向の影響を受けやすく、受注が減少傾向である。
- （電気機械器具）・中国向けの輸出が減少しており、景況感は良くないと感じている。
- （金属製品）・米中貿易摩擦の影響が出ており、景況感はあまり良くない。
- （食料品製造）・7月の低温で季節商品が不振であったが、景況感は普通である。
- （銑鉄铸件）・米中貿易摩擦の影響で不況である。
- （百貨店）・増税前の駆け込み需要で高級品の販売が伸びており、景況感は普通である。
- （旅行業）・観光需要は個人受注も団体受注も堅調である。
- （建設業）・民間工事は弱含んでいるが公共工事が堅調であり、景況感は普通である。

【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・売上減少に加え原材料費・物流費が上がっており、採算性は悪化している。
- （輸送用機械器具）・受注は特定の先だけではなく、全般的に減少している。
- （電気機械器具）・受注が減少しており、残業代を削減したものの採算性は悪化した。
- （金属製品）・売上げが減少している中、人件費・材料費が上昇したため採算性は悪化した。
- （プラスチック製品）・受注単価の改善や残業代の圧縮効果により採算性は改善した。
- （食料品製造）・売上増加に加え材料費も減少していることから採算性は改善した。
- （スーパー）・売上げは減少するものの、業務効率改善により利益は維持している。

【今後の見通し】

- （輸送用機械器具）・米中貿易摩擦や消費増税の反動減により先行きは悪化する見込み。
- （金属製品）・米中貿易摩擦の先行きが不透明であり、今後の先行きも厳しい。
- （印刷業）・増税の反動減が懸念されるが、受注が安定しており、良い方向に向かうのでは。
- （百貨店）・消費増税の反動減で年内は悪い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・オリンピック・パラリンピックを控え観光需要は堅調さが続くともみている。
- （建設業）・民間工事は弱含むものの公共工事が堅調であり、工事件数は前年並みとなる見込み。